

## (7) 漢字こそ最高のプレゼント

### 覚えることを楽しませる

ここでは、毎日の学習が、出来る限り効果の上がるよう進められていくために、親としてぜひ心得ておいていただきたいと思う点を、一、二述べたいと思います。

まず第一は、「この漢字学習は子どもが良い子であった場合、その褒美として行なうものである、という態度を常に堅持してほしい」ということです。

なぜかと言いますと、学校ではつらい仕事とされている「漢字を覚えること」が、子どもにとっては“楽しい遊び”であり、それは“最高の楽しみ”と言っても決して言い過ぎではありません。だから褒美としてこれほど子どもの心を満足させるものはないのです。

金銭や物品による褒美は、次第にこれを増大していかなければ効果がなく、それは子どもの心を墮落させますが、この褒美は、与えることによって子どもの心をいよいよ高める働きを備えています。

論語に「君子は恵んで費さず」とありますが、この褒美は、いくら与えてやっても親の懐が痛むということがありません。これこそ「恵んで費さず」というもの、理想的な褒美と言うことが出来ます。

従って、当然のこととして「子どもが悪い子であった場合は、漢字学習を行なってはならない」ということも厳守していただきます。親としては、一日一回でも休みたくないでしょう。その気持はよくわかりますが、そこが肝腎です。悪い子であるのに漢字学習を許したら漢字学習は

傷がつきます。「漢字を覚えること」は、もはや“最高の楽しみ”ではなくなってしまう。そうなったらもうおしまいを取り返しはつきません。

「漢字を覚えること」が楽しい遊びだからこそ幼児は漢字を覚えるのです。記憶の原理は“関心”と“反復”の二つです。楽しいからこそ“関心”が強く、喜んで“反復”するのです。褒美でなくなったら、“関心”は弱まり、従って“反復”しなくなります。

小学校の漢字教育がうまく行かないのは、記憶力が次第に低下していくこともありますが、それよりも「漢字学習を罰として課す」ことをしているからです。“形だけ”いかに“反復”練習させても、いやいやながらしているのでは決して効果は上がりません。

第二は、「漢字が正しく読めた時は、よく読めた、偉い、と言ってほめ、心から喜んでやる」ということです。親の喜ぶ顔ほど子どもを生き生きさせるものはありません。子どもがやる気を出せば効果が高まります。

だから、子どもが読めなかった場合、子どもを責めることはもちろん、がっかりしたり不満顔をしてはいけません。初めて教えてやるような態度で、おだやかに教えることが大切です。

次に参考のためもう一か月分の学習漢字を掲げてみます。

靴、靴下、鞆、傘、帽子、人形、積木、塗り絵、折り紙、絵本、風船、鈴、笛、太鼓、鉄棒、滑り台、公園、砂場、砂、石、花、草、池、汽車、電車、自動車、自転車、三輪車、飛行機、船。